

評価者	市民生活部長	齋藤 和徳
-----	--------	-------

◎ 評価対象分野・施策の方針・目標とすべきまちの姿

総合計画上の位置付け	分野	勤労者福祉	施策の方針	雇用支援の充実
目標とすべきまちの姿	本市による効果的な就労支援が就職をめざす市民にとって強い味方となり、正社員雇用や短時間雇用など本人が希望する多様な働き方ができるようになっています。また、勤労者はリストラ等の雇用調整の対象となった場合でも自らの職を確保するための手段・方法と自己のスキルのギャップを明確に把握し、効果的に職業訓練や就職活動を行なうことができています。			

1 市民意識調査結果

(1) 認知度(回答者全体に占める割合)

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	令和元年度(2019年度)	33.9%	平成30年度(2018年度)	35.5%	平成29年度(2017年度)	32.7%
	平成28年度(2016年度)	35.0%	平成27年度(2015年度)	34.2%		

(2) 妥当性

令和元年度(2019年度)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	0.6%	0.3%	0.2%
ちょうどよい	0.6%	35.0%	1.1%
効果不十分	1.8%	4.6%	16.0%

仕事の効果

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

平成30年度(2018年度)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	0.5%	0.2%	0.0%
ちょうどよい	1.2%	34.5%	1.3%
効果不十分	2.5%	2.8%	16.4%

仕事の効果

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

平成29年度(2017年度)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	0.2%	0.5%	0.0%
ちょうどよい	0.4%	35.9%	1.1%
効果不十分	2.5%	3.5%	18.5%

仕事の効果

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

平成28年度(2016年度)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	0.7%	0.4%	0.2%
ちょうどよい	1.2%	32.5%	1.4%
効果不十分	2.0%	2.7%	18.3%

仕事の効果

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

平成27年度(2015年度)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	0.1%	0.3%	0.0%
ちょうどよい	0.6%	32.5%	0.4%
効果不十分	2.3%	3.9%	19.7%

仕事の効果

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答
令和元年度(2019年度)	23.0%	33.6%	4.0%	39.4%
平成30年度(2018年度)	22.1%	33.1%	4.5%	40.3%
平成29年度(2017年度)	26.5%	33.0%	3.0%	37.4%
平成28年度(2016年度)	24.7%	32.5%	2.8%	40.0%
平成27年度(2015年度)	27.3%	30.2%	3.0%	39.5%

2 内部評価

(1) 令和元年度(2019年度)の目標

①就職対策セミナーは、30年度から1時間毎の4講座(一日)を希望で選択する形式で月2回、毎月開催曜日を変更する形態に改めた「就職対策ミニ講座」として開催した。しかし秋以降参加者が伸びなかったため、31年度は、さらに開催形態の見直しやハローワークと連携した告知方法により参加者の増加につなげる。(市民-18)

②「女性就職応援セミナー」は、引き続き市民団体とともに「協働事業」として継続し、働くことを迷う、子育て世代(働きにくい世代)の女性や就労ブランク世代の女性が就労の機会を得るための動機付けや知識習得の支援を行い、参加者から1人でも多くの就労につなげる。(市民-18)

③引き続き、「鎌倉の企業就職面接会」を実施し、市内の企業と鎌倉で働きたい市民のマッチング事業を行う。なお、開催にあたっては「就職対策ミニ講座」や「女性就職応援セミナー」の参加者へ告知するなど各事業と関連させて周知に努めると共に、就職機会の情報を必要としている市民に、最適な広告やハローワークと連携した告知方法により情報を届け、参加者の増加につなげる。(市民-18)

(2) 目標とすべきまちの姿と令和元年度(2019年度)の目標との関連性

①②③「就職対策ミニ講座」や「女性就職応援セミナー」、「鎌倉の企業就職面接会」は、就職をめざす市民が効果的に就職活動を行うための支援となる。(市民-18)

(3) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

評価対象事業名		決算値(千円)		職員数(人)		法定受託 事務	今後の 方向性	
整理番号	事業名	令和元年度 (2019年度)	平成30年度 (2018年度)	令和元 年度 (2019 年度)	平成 30年度 (2018年 度)		事業内容	予算規模
市民-18	労働環境対策事業	4,576	6,408	0.8	0.8	無	a	C

(4) 主な実施内容

【主な実施内容】

①就職対策セミナーは、平成30年度から開催形態を変更したが、下半期での参加者数が伸びなかったため、令和元年度は、さらに開催形態の見直しやハローワークと連携した告知方法により参加者の増加につなげることができた。(市民-18)

②「女性就職応援セミナー」は、引き続き市民団体とともに「協働事業」として継続し、働くことを迷う、子育て世代(働きにくい世代)の女性や就労ブランク世代の女性が就労の機会を得るための動機付けや知識習得の支援を行い、延べ61名の参加者から4名の就労につなぐことができた。(市民-18)

③引き続き、「鎌倉の企業就職面接会」を実施し、市内の企業と鎌倉で働きたい市民のマッチング事業を行った。なお、開催にあたっては「就職対策ミニ講座」や「女性就職応援セミナー」の参加者へ告知するなど各事業と関連させて周知に努めると共に、就職機会の情報を必要としている市民に、最適な広告やハローワークと連携した告知方法により情報を届け、参加者の増加につなぐことができるよう努めた。(市民-18)

【実施できなかった事業とその理由等】

(5) 令和元年度(2019年度)の取組の評価

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	■ 適切 □ 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	■ 適切 □ 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	□ 適切 ■ 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	■ 適切 □ 要改善

<上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等>
 就労支援事業として専門職であるキャリアコンサルタントによる個別相談や就職対策セミナー、鎌倉の企業就職面接会、女性就職応援セミナーを実施した。
 しかし、就職対策セミナーや鎌倉の企業就職面接会については、本市単独での実施による費用対効果を考えると、近隣市と合同での実施や国県の事業活用など、新たな方策を検討していく必要がある。(市民-18)

3 主な事業における指標(目標ごとに1つ設定)

整理番号	市民-18	事業名	労働環境対策事業						
指標の内容	「鎌倉の企業就職面接会」の参加人数				単位	人	指標の傾向	↘	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)	29年度湘南合同就職面接会(3市1町)の参加人数の4倍	
鎌倉で働きたい市民の意向を押し量ることが出来ると共に就職率の向上に寄与するため。	目標値	-	-	-	-	20	20		
	実績値	-	-	-	-	15	8		
	達成率	-	-	-	-	75.0%	40.0%		